

本学における秘書教育の実情と課題 (1)

—本学学生の秘書士課程履修動機調査—

小 田 純 江

Situations and Future Suggestions for Secretarial Education at A Women's Junior College (1)

—A Survey of Students' Motivations in Studying Secretarial Education
at This College—

Sumie ODA

I はじめに

現実の社会では、秘書ということばで呼ばれている職業人はかなり存在している。しかし、一般にいわれている如く、これらの人達の職務内容は一様ではなく、又、要求される技能もさまざまであるうえ、同一企業内においても、上司がかわれば、その上司の性格、職務内容、秘書に対する期待の度合い、上司自身の秘書を使いこなす伎倆等により、同一秘書本人の職務内容も、元上司時代のそれより変化するところもあるのである。つまり、上司（又はその企業）が、どのような秘書をのぞんでいるか、秘書にどんなことを期待しているか、どこまで仕事をさせようとしているか等によって、その秘書の具体的な業務がきまってくるのが実情であり、秘書の業務は、単独には存在せず、上司との関連において存在し、秘書の機能は、上司を補佐することであるといわれるのである。従って、秘書は、上司（又はその企業）が、自分にのぞみ、期待するところを正しく理解できなければならないし、又、秘書は、相手の立場に立ってものを考えることができる能力を、より多く持っていることにより、その職務をよりよく遂行することができるのである。

秘書は、今後まだまだ研究され、解明されなければならない多くの問題を内包したまま、現実には、それぞれの現場で、それぞれの条件下で、働いているのである。

いろいろの面で、一律には規定しにくい部分を多く

持っているのが、現場で実際に働いている秘書であるということ念頭において、筆者も、暗中模索の状態である。本学において秘書教育を行なっているのが現状である。秘書教育は、現場で実際に働いている秘書を全く無視しては行なえないのである。

筆者は、学生の実態を把握し、本学の秘書教育研究の一助にするため、本学学生の秘書士課程履修動機について調査した。

II 調査方法

昭和58年度2年生の秘書士課程を履修した学生を対象に、昭和58年10月4日及び10月6日に、アンケート方式で行なった。当該学生144名中回答した学生は134名（回収率93.1%）で、その内訳は、被服学科、93名中84名（回収率90%）、食物コース、51名中50名（回収率98%）であった。

III 結果及び考察

秘書士課程学生の履修動機調査結果をまとめたものが、表1である。被服学科では、「就職に有利だから」という動機が最も多く、47.6%、ついで、当該学生が履修可能なもう一つの資格である「教職が嫌いだから」というのが、29.8%で、この2つが他を大きくひきはなしている。一方、食物コースでは、「就職に有利だから」と、「教職が嫌いだから」がそれぞれ30%、「秘書の勉強をしたいから」というのが28%と3つにわかれている。全体としては、「就職に有利だから」

表 1. 秘書士課程履修の動機

(昭和58年度2年生)

履修動機 科・コース	秘書の勉強が したいから	就職に有利だ から	楽しそうだか ら	教職が嫌いだ から	そ の 他	計
被服学科	8 (9.6)	40 (47.6)	6 (7.1)	25 (29.8)	5 (5.9)	84 (100)
食物コース	14 (28.0)	15 (30.0)	3 (6.0)	15 (30.0)	3 (6.0)	50 (100)
計	22 (16.4)	55 (41.0)	9 (6.7)	40 (29.9)	8 (6.0)	134 (100)

注) 上段は学生数, 下段は%

表 2. 就職希望分野

就職希望分野 学科・コース	専攻学科の 専門分野	秘 書	一般事務	そ の 他	計
被服学科	12 (14.3)	0 (—)	66 (78.6)	9 (7.1)	84 (100)
食物コース	5 (10.0)	1 (2.0)	40 (80.0)	4 (8.0)	50 (100)
計	17 (12.7)	1 (0.7)	106 (79.1)	10 (7.5)	134 (100)

注) 上段・学生数, 下段%

表 3. 秘書士課程履修動機と就職希望分野

就職希望分野 履修動機	専攻学科の 専門分野	秘 書	一般事務	そ の 他	計
秘書勉強	—	—	19	3	22人 (16.4)
就職有利	4	1	45	5	55人 (41.0)
楽しみ	—	—	8	1	9人 (6.7)
教職嫌悪	9	—	30	1	40人 (29.9)
そ の 他	4	—	4	—	8人 (6.0)
計	17人 (12.7)	1人 (0.7)	106人 (79.1)	10人 (7.5)	134人 (100)

注) 下段の数字は%

というのが41%でトップを占め, ついで, 「教職が嫌いだから」が29.9%, 「秘書の勉強をしたいから」が16.4%と続いている。

秘書士課程の学生の就職希望分野は, 表2に示す如く, 一般事務を希望する学生が, 被服学科78.6%, 食物コース80%と断然他をひきはなしている。「秘書の勉強をしたいから」秘書士課程を履修した学生22名も,

19名は一般事務に就職することをのぞみ, 3名は無回答であった。「就職に有利だから」履修した学生の中の1名が, 就職希望分野を秘書とした。表3は, 履修動機と就職希望分野の関連をみたものである。

これらからみると, 本学の秘書士課程の学生は, 履修動機は3つにわかれるが, 就職に関しては, 一般事務を希望する学生が圧倒的に多いことがわかる。「一

般事務」を希望する傾向は、本学の当該学生にみられる特徴とはいえないようである。

日本リクルートセンターの調査¹⁾によると、高校生の女子短大進学動機は、「資格取得のため」が1位で33.3%を占め、ついで、「教養や視野を拡大するため」で13.5%とかなりさがっている(表4)。又、女子短大生の卒業後の進路予定は、同じく日本リクルートセンターの調査²⁾によると、「民間企業や官公庁に就職したい」というのが93.5%であり(表5)、就職後就きたい職種は、「事務(営業、総務等一般事務)」がトップで、その割合は、70.1%と群をぬいている(表6)。つまり、「一般事務」に就くことを希望するのは、本学の学生だけでなく、女子短大生の一般的傾向であることがわかる。

表4. 高校生の女子短大進学動機 (上位6項)

資格を取得するため	33.3%
教養や視野を拡大するため	13.5
専門知識や技術を修得するため	12.5
このまま社会に出るのが不安だから	9.9
学校生活や課外活動を楽しむため	9.8
就職に必要な勉強をするため	7.4

(日本リクルートセンター進学動機調査 p. 27)

表5. 女子短大生の卒業後の進路予定

民間企業や官公庁に就職したい	93.5%
各種学校や大学院などに進学したい	2.6
家事手伝い	0.2
まだわからない	3.3
無答	0.4

(日本リクルートセンター女子学生の就職動機調査 p. 5)

表6. 女子短大生の就職後就きたい職種 (複数回答)

事務(営業・総務等一般事務)	70.1%
秘書	38.1
受付	37.0
事務(経理事務)	33.8
企画調査	24.8

(上位5位)

(同上 p. 7)

以上のことから、一般的傾向として考えられることは、秘書士課程を履修すると、秘書士の資格を得ることができるし、秘書に関するいろいろなことを学ぶことは就職に有利と学生達は考えているということであ

る。この推測の裏付けは、今回のアンケートにみられる「秘書の授業でもっと学びたかったこと」は、「接遇・マナー」というのがトップで91%を占め、秘書の職務知識や技能を大きくひきはなしていることから、うなずける。つまり、秘書ということばかりから会社を連想し、続いて就職それは一般事務というように、秘書→会社→就職→一般事務というイメージが作られ、「秘書士課程を履修し、秘書の素養を身につければ就職に有利だし、又それが、事務職の分野で役立つ」と考えるのである。このことは、一年間の秘書士課程履修後の学生達のレポートからもうなずける。レポートの中にみられる学生達のことばを若干例あげると、「秘書の授業をうけ、社会のきびしさそしてルールというものがあることを知った」、「早く社会へ出て働いてみたいという気持ちがだんだんとふくらんできた。社会へ出ていろんな面に役立っていきたい」、「秘書になれなくても、私の中に残ったものは、これから社会に出てからも役立つことばかりで、このコースをとって本当によかった」等々であった。

教える側においても、秘書という実際の職業上のジャンルの名を冠した「秘書教育」となると、すぐ目の前にある「就職」に役立つようにという近未来的目的意識の存在を完全に否定し得ないところがある。しかし、短期大学における秘書教育は、職業教育ではない。勿論、就職ということは、人生の中の大切な一つの節目であるから、その大切な節目に、秘書教育で学んだことが安心感となって働き、自分の持てる力を発揮できるというみでの有利にすることは大切である。この種の実務教育では、そうした有利さは、学校教育の場においても、ある程度は必要であろう。従って、学生達の秘書士課程履修動機の中の、「有利だから」と感ずるものを「就職に」というだけでなく、少しでも長く持ち続けることができるように、技能面での育成とともに精神面での育成をはかるように、秘書教育を充実させていくことが大切である。

本学における秘書教育は、秘書の役割、秘書が抱えるさまざまな問題、秘書が働く現場及びそれに関連する問題等々を通して、人間としてわきまえておかねばならない常識、人と人とのかわりあいのもとになる基本的なもの、より豊かに生きてゆくための基礎となるもの等々を学び、それらを各自がおかれた場所で十分発揮し、それぞれの役割を果たしていけるような人間教育、技能面、精神面両面からの秘書的能力の育成を

母体とした人間教育をめざしていくことが必要であり、そのための効果的な指導方法をたゆまず研究していくことが必要である。

IV ま と め

本学における秘書教育は、まだ緒についたばかりである。秘書士課程の学生の実態を知り、今後の秘書教育研究の一助とするため、アンケート方式により、本学の昭和58年度秘書士課程の2年生の学生の秘書士課程履修動機を調査した。

結果をまとめると、次のようなことがいえる。

本学の学生の秘書士課程履修動機の最も多いものは「就職に有利だから」で、134名中55名41%であった。又、卒業後は一般事務に就くことを希望する学生が圧倒的に多く、134名中106名79.1%であった。日本リクルートセンターの調査においても、女子短大生の就職後就きたい職種 of 1位は一般事務であり、本学学生の特徴ではなく、女子短大生の共通の傾向といえる。

本学の学生達は、“秘書”ということばかりから、秘書→会社→就職→一般事務というイメージを作り、秘書士課程を履修し、秘書的素養を修得すれば、就職の際有利だし、又、秘書になるわけではないが、修得したことは、自分達が希望する一般事務職の分野で十分役立つと考えて、秘書士課程を履修しているといえる。

短期大学における秘書教育は職業教育ではないが、学校教育の場においても、この種の実務教育では、すぐ目の前にある就職に役立つようにという近未来的目

的意識を完全には否定し得ないところがある。故に、本学の秘書教育においては、学生達のこの（秘書士課程を履修することは）有利だとする意識を、「就職に」という理由だけでなく、もっと広く、もっと豊かに持続できるように、技能面、精神面両面からの秘書的能力の育成をはかり、自分達のいるそれぞれの場所で、他の人の立場を理解することができ、自分達の役割を自覚し、それを遂行していけるような人間教育をめざしていくことが肝要であろう。

お わ り に

これは、本学の秘書教育に関し、はじめて報告させていただくもので、論文というにはあまりに稚拙ですが、これを機に今後引き続き研さんを重ねてゆくつもりであえて寄稿させていただきました。先輩諸先生方のご指導を切にお願いするものであります。

最後に、教師として未熟な筆者を、陰に陽に、ご指導ご鞭撻下さいました学長先生、秘書士参与の岩見先生、藤森先生、及び堀江先生はじめ諸先生方に、この場をおかりし、心からの感謝の意を表させていただきます。

文 献

- 1) 日本リクルートセンター 調査部 進学動機調査 1984, p. 27
- 2) 日本リクルートセンター調査部 女子学生の就職動機調査 1983, p. 5 及び p. 7

Summary

Secretarial education at this college has just started from its starting point. To grasp students' attitudes towards secretarial education courses at this college, and also to improve the program at the college, a survey was conducted of the students who enrolled in the program in 1983. Students were asked their motivations for taking the secretarial course of study.

As a result of the survey, it was found that 55 students out of 134, or 41% of the students, took secretarial courses at this college because they thought taking the classes would be beneficial for them in getting a job. In fact, 106 students out of 134, or 79.1% of the students, said they were thinking of getting an office clerk job after they graduated. To support the results of the survey, the most popular job for students in women's junior colleges in this country is that of an office clerk, according to a survey conducted by the Japan Recruit Center. Thus, the results of this survey show that this phenomenon is not peculiar but is very common.

The writer analyzes the results as meaning that most students make the connection of "secretary" to "company", their "company" to "their future career", and from "their future career" to "office clerk". Hence, they think it would be beneficial for them in getting a job if they learn secretarial knowledge through the coursework, or if they can not get a secretarial job, they would then be able to use that knowledge in regular office clerk work.

Of course, secretarial education should not be offered solely for vocational purposes, but we also cannot ignore those students' realistic expectations of the program.

To conclude the findings of this survey, the writer wishes to emphasize that secretarial education at a college should be stressed as providing a broader human education, not only in its vocational aspects, but also in other aspects. These other aspects include helping students understand other people's situations in their future working places, and also helping them develop responsibility as a worker.